

再評価結果（平成24年度事業継続箇所）

担当課：道路局高速道路課

担当課長名：中神 陽一

事業名	東海北陸自動車道 (白鳥～飛騨清見)		事業区分	高速自動車国道	事業主体	中日本高速道路(株)
起終点	白) 岐阜県郡上市白鳥町那留 至) 岐阜県高山市清見町夏蔵				延長	4.1 km
事業概要	東海北陸自動車道は、中部圏を南北に縦断し、かつ名神高速道路と北陸自動車道を結び、中部圏における骨格的交通網の中核を成し、東海地域・北陸地域の一体的発展に大きく寄与する路線である。					
S 6 1 年度事業化	都市計画決定 -		S 6 3 年度用地着手		H 1 年度工事着手	
全体事業費	2,680億円	事業進捗率	約69%	供用済延長	4.1 km	
計画交通量	9,200台/日 ~ 11,000台/日					
費用対効果 分析結果	B / C	総費用	(残事業)/(事業全体)	総便益	(残事業)/(事業全体)	基準年
	(事業全体) 1.4 (残事業) 1.1	460/3,780億円 事業費：411/3,171億円 維持管理費：48/610億円		519/5,187億円 走行時間短縮便益：489/4,209億円 走行経費減少便益：7.1/638億円 交通事故減少便益：23/341億円		平成24年
感度分析の結果	残事業について感度分析を実施					
交通量変動	: B/C=1.2 (交通量 +10%)		B/C=1.0 (交通量 -10%)			
事業費変動	: B/C=1.0 (事業費 +10%)		B/C=1.2 (事業費 -10%)			
事業期間変動	: B/C=1.2 (事業期間 -1年)		B/C=1.1 (事業期間 +1年)			
事業の効果等	日常生活圏の中心都市へのアクセス向上が見込まれる 主要な観光地へのアクセス向上が期待される 三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる <span style="float:right">他13項目に該当</span>					
関係する地方公共団体等の意見	白鳥～飛騨清見間の4車線化事業を加速し、早期完成をお願いされ、また、地域経済への波及効果が大きいことから、地元企業・地元産品の優先的な活用を図るよう要請(平成24年11月)を受けている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	平成20年7月の東海北陸道全線開通以降交通量は増加し、平成23年の平均交通量は11,400台/日となり、交通集中による渋滞の半分以上(渋滞量：1,792km・hr)が対象区間で発生している。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	4車線の用地取得が完了し、暫定2車線にて供用中。残事業の内容は4車線化工事。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	暫定2車線にて供用中であり、4車線化工事の進捗を図る予定。					
施設の構造や工法の変更等	新技術・新工法や現地の状況変化も確認しながら積極的にコスト縮減を図っていく。					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は満たしており、事業実施の目処が立っている。					
事業概要図						

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの